

八戸工業大学 同窓会報

同窓会から壹千万円の寄付

大学創立30周年記念事業を支援

十月十八日、八戸工業大学同窓会「同窓生の集う会（総会）」が開催された。会場の八戸グランドホテルには、同窓生と教職員約百二十名が一堂に会し、旧交を温めた。また、会に先立ち同窓会の理事会が開催され、大学創立30周年記念事業に対する支援と次年度の予算計画等を協議し、満場一致で承認された。

今回の集う会には、独立法人鉄道建設運輸施設整備支援機構設計技術室調査役の服部修一氏を講師に迎え、「東北新幹線建設の現況―八甲田トンネルを中心として―」と題して講演が行われた。講演会後の懇親会は、下館政美同窓会副会長から白川直人同窓会長のメッセージが代読され、高橋学長に大学創立30周年記念事業への寄付金壹千万円が目録が手渡された。次いで高橋学長からお礼の言葉が述べられ、貝瀬俊治第一高校同窓会長と熊谷雄一第二高校同窓会長による来賓の挨拶に続き、清野大樹図書館長から30周年事業で建設が予定されている「地域メディアセンター」がスクリーンで紹介され、小田正父兄後援会長の音頭で声高らかに乾杯した。余興に吹奏楽部の演奏が披露され、参加した同窓生たち

は、恩師や旧友と杯を傾けながら和やかに歓談した。最後に吹奏楽の伴奏で全員で校歌を斉唱し、盛況裡に終了した。



八戸工業大学同窓生の集う会懇親会

大学対抗OBゴルフ大会

今年度も快勝！

去る平成十五年十一月一日、第九回八戸大学会OB対抗ゴルフ大会が八戸カントリークラブで行われ、八工大Aチーム（佐京康美・昭和52年機械卒、武田公生・昭和56年機械卒、泉山賢一・昭和52年産業機械卒、能代谷伸・昭和52年機械卒）は二十一チーム八十名出場中、見事準優勝となりました。個人では佐京選手が四位、武田選手は七位でした。なお、八工大チームは平成十二年、十四年大会で優勝するなど輝かしい戦績を残しています。

八戸大学会OB対抗ゴルフ大会は、毎年八月～十一月に八戸市在住の各大学OBを対象として行われています。興味のある方や参加を希望する方は能代谷氏(E-mail:noshi@infoao.mori.ne.jp)までご連絡下さい。



第5号

3月・9月発行

八戸工業大学

同窓会本部事務局

TEL

0178-25-8027

FAX

0178-25-6183

八戸工業大学教育研究後援会

「地域情報メディアセンター」建設に向け前進

十一月二十五日、八戸工業大学教育研究後援会が開催された。八戸工業大学教育研究後援会は、本学創立30周年・大学院完成を契機に本学の教育研究活動の充実、地域社会との連携強化への支援・協力を目的に昨年発足した。この会の最初の活動は、在学生のみならず卒業生や地域の誰もが最新の情報を収集でき、かつ交流の場として利用できる図書館機能を備えた「八戸工業大学地域情報メディアセンター」の建設に協力することとしている。

支部総会のお知らせ

二つの支部で同窓生の集う会が行われます。お近くにお住まいの方は、お友達をお誘い合わせの上、是非ご参加ください。教職員も多数参加させて頂きます。

北海道支部総会

日時・平成十六年四月十日（土）

十八時～

会場・ホテルオークラ札幌（札幌市中央区南一条西五丁目九一）
会費・五千元
申込方法・同封葉書か、E-mailで



東北支部総会

こととしている。役員会では、会長の佐々木高雄東奥日報社代表取締役社長の挨拶の後議事に入り、役員の変更が承認された。次いで、清野大樹図書館長から既存図書館との有機的連携を視野に入れたメディアセンターの暫定建設場所等の進捗状況の報告と福井俊夫事務部長から建設にかかる寄付活動の経過報告と今後のスケジュールが報告された。最後に、佐々木会長から本学の地域に密着した教育研究活動に対し敬意の言葉が述べられ、メディアセンター建設に向け後援会として支援を行っていくことを確認し閉会した。

日時・平成十六年五月二十二日（土）

会場・イーストパルタ八階（仙台台東徒歩一分）

第一部・公開講座

時間・十六時～十七時三十分

演題・21世紀は環境の時代

―宇宙からの環境観測―

講師・藤田成隆教授ほか

第二部・同窓生の集う会

時間・十八時～ 会費・三千元

特典・ビンゴゲームで景品付き

申込方法・同封葉書か、E-mailで



電子知能システム学科 水交会ニユース

研究室探訪

◎藤田研究室

現在、「ロボットヘリコプターを用いた地雷探査技術の開発」、「ナノテクを利用した有機EL(電界発光)素子の開発とカラーディスプレイへの応用」、「NASA(アメリカ航空宇宙局)衛星データによる自然環境解析」などの研究を行っています。

地球上には一億個以上の地雷が埋められており、平和貢献の観点から現在新地雷探査技術を開発しており、最終的にはGPSを搭載して効率よく地雷探査を行います。現在数百m上空から地形データを送信できる状況にあります。また、有機EL素子は、優れた点が多く次世代カラ



ーディスプレイ用素子として非常に注目されており、EL素子の長寿命化、高輝度化に取り組んでいます。

一方、地上約八百km上空を飛行している衛星からのデータを、屋上に設置したパラボラアンテナで直接受信して自然環境の解析を行い、農業分野、水産分野などへ利用しています。『ものづくり』『宇宙から見た地球観測』の楽しさを体験してもらえたらと思っています。

菊地 晃司さん (電気電子工学科四年、就職先：㈱ユアテック)

学生生活で印象に残ったことは卒業研修だった。藤田先生のご指導の下、「ロボットヘリコプター搭載用の地雷探査装置の開発」について卒業研修を行った。地球上には一億個以上の地雷が残留しており、地雷を除去する作業員は常に危険が伴う。そこで、取組んだのが作業員の負担を軽減するため、地雷探査装置の開発を目的とした、国際社会に貢献できる研究である。卒業研修を通じて、社会人としての良識と工学倫理、専門分野の基礎知識とその応用・展開能力、さらに自主的かつ継続的に学習できる能力を養うことができた。これからは八戸工業大学の卒業生であるという自覚と誇りを持ち、「良き技術は、良き人格から生まれる」

の理念を念頭に置いて頑張っていきたい。また、地雷探査装置が国際的に貢献できることと同じように、同窓生として八戸工業大学の更なる発展のために貢献して行きたい。

◎根城研究室

根城研究室では宇宙機のエンジンと核融合装置内ガスの特性について開発・研究を進めています。ここでは宇宙機について述べます。自動車のエンジンは機械工学の領域ですが、宇宙機では宇宙の理解なしには開発を進められません。言うまでもなく宇宙はプラズマであり、電子・陽子など荷電粒子の支配する空間です。宇宙機は集積回路の塊であり、



人間と交流できる一つの知能システムです。この分野に興味を持つ学生が増えており、最近では通信衛星やその電源の仕事に就く卒業生がおり、職種の幅が広がっています。興味があれば声をかけてください。皆様のご活躍を願っています。

OB・OGだより

山崎憲悟さん

昭和51年電気工学科卒

現在：計測科学システム代表



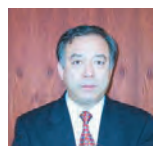
入学したのは昭和四十七年です。第一回生になります。バスは朝と夕方数本だった気がします。だから殆どさばれませんでした。建物も本館しかなく、専門課程に入る三年目頃に電気棟と機械棟が出来ました。大学院を修了したばかりの若い先生も多く、何か先生と言うより、人生の良き先輩と言う感じでした。設備も今ほどは揃っていなかったのですが、何か手作りの教育を受けた気がします。ですから大学では具体的な学問と言うより、まず真摯で熱心なもった教育を受けて三十年余り経った今でも時々そのすがすがしさを思い出しては又頑張る気になつています。仕事は自営業で大学に研究設備を納めていますから、会った方がいるかも知れません。今の仕事は気に入っています。ですから苦労したこともあったかも知れませんが今はたいてい思い出せません。皆さんも就職の時などは会社の規模ではなく、その仕事内容を自分が気に入るかどうかで選ぶことをお勧めします。HITはご存じの通り、八戸工業大学の英語読みの頭文字を取った略語です。しかし、また野球のヒットにかけて、ホームランを狙わずコツコツと打っていけと言う意味に理解し

て、これこそ八工大魂と思っています。お互いにこの心意気で頑張ろうじゃありませんか。

富士信雄さん

昭和52年電気工学科卒

現在：桜総業株式会社青森工場長



電気工学科二回生の富士(旧姓・泉山)です。八戸工業大学を卒業して二十七年が過ぎ、時の過ぎ行く早さに驚くばかりです。八戸近郊(五戸町)にて働いているので、学生時代お世話になった諸先生方にお会いする機会もあり、懐かしく思います。現在、桜総業株式会社というところで働いております。横浜に本社があり、青森工場の他に白河工場、岡山工場、海外では中国の深セン工場、上海工場があります。仕事の内容はワイヤーハネス加工と基板表面実装加工が主で、主力は液晶用バックライトハーネス加工、極細同軸ケーブル加工フレキシ基板実装、リチウム電池関連、バックライト用ランプASSY等を中心に先端技術に取り組んでおります。私の仕事は青森工場の統括と営業が主体で国内での仕事の確保が難しい中、頑張っております。目標を持つて熱意と行動力で頑張れば必ず道は開けるものと思っております。目標の喜びと感動が次の苦難に立ち向かう原動力となっているかも知れません。それには人脈が何より重要なことと痛感しています。現在の自分は八工大の諸先生方の熱意あふれるご

指導があつたからだと深く感謝をしております。今後の八工大と同窓生の皆様の更なる発展をお祈り致します。

● 学科近況報告

JA BEE本審査を受審

電子知能システム学科の教育プログラムが国際水準を満たしていることを証明するために、JA BEE(日本技術者教育認定機構)の本審査を

受審致しました。審査は平成十五年十月五日〜七日の三日間にかけて行われ、審査員より高い評価を受けております。JA BEEは一九九九年十一月十九日に設立され、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、要求水準を満たしているその教育プログラムを認定する非政府団体です。

機械情報技術学科 蒼峰会だより

● 学科職員の近況報告

◎坂本勝男さん



同窓生の皆様にはお元氣でご活躍のことと推察いたします。

私も産業機械学科の職員として勤務し

てから早いもので三十年になりました。産業機械工学科から発展的に廃合された機械工学科、そして現在はその時代の流れから名称を変更した機械情報技術学科に引き続きお世話になっています。

「光陰矢のごとし」といいますが、

この三十年間に多くの思い出を築かせていただきました。勤務当初、先輩や同級生が学生で、自分は職員という立場に戸惑いを感じながらの日々であつたこと、本館から専門棟に什器類を寺下技術員(現学生課係長)と二人で移動させたこと、技術員が四人となり、先生方の教育・研究も一段と充実し、そのお手伝いをさせていただいたこと、学生実験で満足できる結果が出るまで実験を続けたこと、卒業研修の打ち上げでは、潰れるまで飲み明かしたことなどが思い浮かびます。最近では、ほぼ同世代の親を持つ学生が入学していることに、時の経つ速さに驚きを感じる毎日です。

今、日本の大学は過渡期を迎えています。機械工学科の良き伝統を堅持しながら、教職員一丸となつて諸課題に取り組んでいます。最後に、健康第一で八戸工業大学同窓生としての誇りを胸に、ますますのご健闘をお祈りしています。

◎寺井孝男さん



同窓生の皆様、こんにちは。

八戸工業大学第一高等学校(旧八戸電波高等学校)と改名されての一

期卒業。昭和五十一年から技術職員として八戸工業大学に勤務していま

す。高校を卒業してからすぐに就職したので、学生の方が年上で、高校時代の先輩もあり、試験監督や実験指導など、仕事に慣れるまで大変でした。現在は、大学院生も大勢いて、機械工学基礎・応用実験の指導とか卒業研修の面倒も見てくれます。技術員としては、オリエンテーション(新入生一泊研修旅行)と三年生の工場見学引率、夏休みに実施している一年生対象の機械解剖学演習(エンジン実習)補助等を行っています。

部活動では、ソフトテニス部監督をして二十五年、新たにボクシング部コーチも引き受けてしまいい九四年になります。同窓生の皆さんは、何か趣味に打ち込んでいますか? スポーツはストレス解消のみならず、人格形成にも繋がります。生活の質

を高め、積極果敢に人生に取り組んでください。

最後に、学科同窓会事務局をしておりますので住所変更等ありましたら、メールまたは会報付けの葉書にてご連絡いただければ幸いです。

● ボクシングで快挙

ボクシング部監督 大塚 哲

コーチ

寺井 孝男

紺谷君は今年度四大大会に出場し、二大会で優勝を飾った。まず六月に八工大一高で行われた東北地区春季トーナメント大会では、フ

ライ級で優勝。

四年紺谷陽広君と三年清水洋伸君
第十三回東北地区大学選手権で優勝



勝利の拳を高らかにあげる紺谷陽広君

リアの差で敗れました。そして学生生活で最後の試合となる標記大会では、より強い相手を目指し、一階級上のバンタム級で出場し、体力差はあつたが、順調に勝ち上がり、決勝はバンタム級で常勝の富士大の選手と対戦、見ごたえのあ

る試合となった。突進してくるブルファイターを相手に一歩も引かず、左右にいなして打ち込む、まるでスペインの闘牛士を思わせる試合展開となり「打たせないで勝つ」理想的なパターンで四年間の集大成としました。

一方、勉学、部活動、アルバイトの三立を目指す清水君は、その間隙をぬって一大会だけに絞り出場しました。ライトウェルター級は五人出場。決勝は粘られてたじたじの展開となったが辛くも逃げ切り、これで負け知らずの九連勝。

共にこの大

会で優勝した二人は対象的な面が多い。縄跳びもろくにできなかった紺谷君は入部以来練習を休んだことはない。デビューから五連敗し、三年生になつて初めて勝つ味を覚えた苦勞人です。

努力によって勝ち得た二階級制覇は先輩の良き手本となることでしよう。身体的素質に恵まれた清水くんも卒業まであと一年、ボクシング部での経験が自分探しの一助となるよう期待しています。

環境建設工学科 シンボル会

●八戸工業大学の 7年間を振り返って

須田 熙 教授

私は、平成九年四月に東北大学を停年退官してすぐに、博士課程新設ということで八戸工業大学に招かれ、以来七年間はあつという間に過ぎ、今年三月に延長定年退職（七十才）の時期を迎えました。この間、学科長を二年、学長補佐を二年勤め、二名の博士も出すことが出来、何とか責任は果たさせて貰いました。今、長年（四十八年）の仕事から解放されてほっとしている反面、「日残りに暮るるに未だ遠し」の未知なる人生にいささかのとまどいを感じている今日この頃です。

さてこの七年間を一言で表現すると、これまでに大学が経験したことのない「激動と変革の時期」だったと思います。十八才人口の激減により、私立大学の学生獲得競争が激しさを増すと共に、大学に特徴や個性が無いと生き残れない世の中となりました。八戸工業大学の特徴は、地域に密着した教育力の大学であるということ、先生方や大学院生の研究と先生方の社会活動を活発化すると共に、数学や物理などのリメディアル教育（補正授業）等をはじめとしてカリキュラムや教育指導法の改革行い、技術者教育を強化して居ります。また最近、わが国の技術



者教育がグローバルスタンダードになり得るかどうかを外部評価する組織が関係省庁・学会の支援のもとJABEE（日本技術者教育認定機構）として発足しました。これは熾烈になりつつある世界の技術競争の一貫です。平成十二年数大学の認定試行が行われ、翌年の試行には本大学の環境建設工学科が選ばれました。そして一昨年度に本審査が行われ、わが国で初めて、本大学の環境建設工学科を含め九大学が合格と認定されました。これは本大学の教育力が如何に優れているかを示すもので、大いに誇りに思っていることです。

この様に本大学は、先生方が一丸となつて変革の嵐に立ち向かつて居りますが、その後ろ盾となつて大学を支えて呉れるものは、なんとと言っても同窓会です。血のつながりによ

つて一族の集まりが成り立っていると同様に、同窓会と同じ思い出を共有するつながりです。理屈では説明できない親近感が湧いてくる理由もそこにあるのだと思います。本大学は30周年を迎え、記念事業として大学のシンボルとなるメディアセンタ（地域解放型図書館）の建設を目指しており、同窓生の厚いご支援を宜しくお願いする次第です。一昨年八戸新幹線が開通して、八戸は皆様から一層近くなり、大学との交流も益々盛んになる事を期待して居ります。

私も皆様同様、八戸は第二の故郷となりました。今後とも八戸の思い出を心に刻み、大学や皆様との交流を続けて行きたいと思つて居ります。最後に大学と同窓会の一層のご発展をお祈り致しますと共に、七年间のご交誼に深く感謝申しあげまして退職のご挨拶とさせて頂きます。

●ソーラーカーで、 オーストラリア大陸を縦断

土木工学専攻博士前期課程

佐藤 正視（青森県出身）

ソーラーカー世界大会（World Solar Challenge）は、オーストラリアにおいて二年に一回行われるソーラーカーのラリーで、ダーウィンからアデレードまで太陽光だけを使い、十日間以内で約三千kmを走るレースです。途中設けられた七つのポイントに時間までに到着しなければ失格となります。今年の大会には、地元オーストラリアやアメリカから

二十二チームが参加し、日本からは本学と青山学院大学の二チームだけが参加しました。

このラリーで走行する本学のソーラーカー「Hi-Tech」号は、実は、八月上旬に行われた秋田県大潟村の大会で最下位となり、完走できなかったどうか不安を抱えていました。周囲の人たちから「本当にオーストラリアを走るの？」と出発直前まで言われ続けました。

準備は尽くしたものの不安を抱えながら、十月十三日、佐々木幹夫教授（環境建設工学科）と学生、サポート七人が成田から出発しました。私は、四十kgの荷物（タイヤ、四十食分の食料、着替え等）を携え、一日遅れて出発しチームに合流しました。早速、テスト走行に向けた準備にかりました。公道を走るため、車の構造、安全性の検査、ブレーキの点検などが行われ、二日かかってやっと車検をクリアしま



した。

十九日、いよいよスタート。初日はダーウィンからキャサリンまでの三百十八km。このコースは坂が多く、このレース最大の難所キャサリン峠を越えなければなりません。荒い路面を走るソーラーカーが故障しないかハラハラしながらトラックで伴走しました。一日目はぎりぎりでなんとかコントロールポイントまでたどり着くことができました。二日目は、キャサリンからダンマラまでの三百十五km。前日の登り坂でバッテリーを大きく消費した上、曇り空でパネルからの発電量が望めないという悪条件が重なり、ついにコントロールポイント四十一km手前でストップ、トラックでの搬送となりました。三千km完走の夢はこの時点で消えてしまいました。しかし、「完走はできなくても最後まで頑張ろう」と言う佐々木先生の言葉でその後も走り続けました。

走行中ドライバーは、腰や尻の痛み、砂漠の暑さや眠気、トイレも我慢しながら気力と体力で南を目指しました。毎日のテント生活にも次第に慣れ料理の腕も上達、砂漠で食べたラーメンと運転しながら食べたサンドイッチがとても美味しかったです。日本では見たこともないような朝日や夕焼け、夜みんなでウオッカを飲みながら見上げた満天の星空は言葉で言い尽くせないほど綺麗でした。役員の方や地元の人々とジェスチャーを混ぜながらの会話やみんなとの協力などを通して、チームの

絆が次第に強くなっていくのを感じました。

走行距離二千三百kmを走破して十日目に無事ゴールのアデレードに到着、ゴールゲートをくぐりました。みんな泣いて抱き合いました。終わってみれば成績は十五位と大健闘。完走できなかったのは少し残念でしたが、オーストラリアの大地を楽しく充実して走った日々を私は一生忘れることがないでしょう。

最後に、今回オーストラリアを走りきることができたのは、ワークセーターの三上晃さん、仲道茂生さん、八戸工業高校の海老名義一先生、同校OBの工藤洋征さん、塩崎俊一さん、本学OBの山崎憲悟さんらの協力があったからです。協力して頂いた方々、佐々木教授、チームのメンバー全員に深く感謝致します。

●本田友一君

F E試験に合格！

この程、平成十五年三月に土木工学科（現環境建設工学科）を卒業した本田友一君が、アメリカの技術者資格P E (Professional Engineering) の一次試験であるF E (Fundamentals of Engineering) 試験に合格し、オレゴン州の登録委員会から正式にEIT(Engineering in Training)として認定された。

P Eとは、国際的に通用するエンジニアの品質を保証するライセンスとして世界的に高く評価されている資格で、試験は専門分野と幅広い教養問題が英文で出題される。本田君は、昨年十月に受験し、本学科で初のF E試験の合格者となった。本田君は、現在青森県むつ土木事務所勤務し、国際的に通用するエンジニアとして活躍の場を広げるため実務経験を積み、オレゴン州で行われるP E試験（二次試験）の合格を目指している。

● 訃 報

土木工学科の創設期より、四半世紀の長きにわたり教鞭を取ってこれ平成十三年三月にご退職された、諸戸靖史先生（教授）が平成十五年十一月一日に急性肺炎により永眠（六十歳）されました。同窓会としても、先生の長年のご活躍と、本学の教育研究活動に対し厚く感謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

ご遺族連絡先：諸戸安津 様
〒〇三一一〇八四一 八戸市旭ヶ丘一八七 八戸工大宿舍A一四
TEL：〇一七八二五一一七九〇

エネルギー工学科 OB会

実習設備「ミニ製造工場」

エネルギー工学科を発展的に改組して平成十四年度から開設された生物環境化学工学科に「ビール」と「チーズ」のミニ工場が完成し、その設備を見学することが出来ました。

設置は同学科学生が環境に配慮した生産システムを総合的に学ぶ「バーチャルファクトリー実習設備」として「ビール製造プラント」と「チーズ製造プラント」で構成され、実際の製造現場で使用しているプラントの縮小版になり、廃棄物ゼロのいわゆるゼロエミッションを体験学習できる設備です。

ビール製造プラントは、仕込み・煮沸釜、ろ過槽、ワールプール、熱交換器、発酵兼貯酒タンクなどから構成され、ビール百リットルの生産能力があり、製造工程のデータをコンピュータに取り込み、L C A（ラ

イフサイクルアセスメント）を行うことが出来ます。

チーズ製造プラントは、殺菌槽、パッド、プレス機等で構成され、二百リットルの原料乳から三十キロ前後のチーズ製造が可能です。チーズ製造に関しては、一般の人を対象にチーズ製造を体験できる公開講座も行っています。是非、一度ご参加してみてください。



チーズ製造プラント概観

大西誠先生訃報のお知らせ

エネルギー工学科教授の大西誠先生（五十五歳）は病氣療養中のところ、平成十五年九月十一日ご逝去されました。先生は二十七年間、数学教育およびコンピュータ言語による教育ソフトの開発をテーマに教育研究を熱心に行ってこられました。同窓生一同、先生の教育研究に対する情熱に対し尊敬と感謝を申し上げます。心からご冥福をお祈りいたします。

むつ下北地区八戸工業大学

同窓教職員のつどい

平成十六年一月三十一日（土）むつ市田名部町江戸っ子「花」で開催されました。

この企画は、八戸工業大学第三回機械工学科卒業生で、現在むつ市立大湊中学校教頭秋田晃先生の声かけにより、現在むつ下北地区で教職に就き活躍されている方にご案内したものです。

当日は、本学教務部長、長谷川明教授をお招きし「教育環境の充実と八戸工業大学の現状について」のテーマで講演いただき、白川同窓会長、白川同窓会。和やかに親交を深



ビール製造プラント概観

システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

● 第一回うみねこ会

活動報告

昨年十一月二十二日(土)、仙台市にて第一回システム情報工学科同窓会、うみねこ会を開催しました。十一名の同窓生が参加し、教員より苦米地先生、松坂先生が出席下さいました。さらに、本学を退任なされた奈良先生のご参加もあり、この会が盛り上がったことは間違いありませんでした。



会の中では、それぞれの今を話し合いながら、互いに元気であるということを確認し、次のうみねこ会に向けての方針や、開催場所などを話し合いました。苦米地先生より現在のシステム情報工学科の顔である、専用のホームページの更新のお知らせもありました。

次回のうみねこ会開催時の協力を集まった皆さんにお願いし、第一回うみねこ会は閉会いたしました。

(齊藤克治)

● システム情報工学科 ホームページ更新

平成十五年十二月、システム情報工学科ホームページが全面的に更新されました。デザインは白をメインとした淡色で統一されており、左側に見やすいようにボタンをまとめて配置してあります。内容的には以前からあった学科の特長や教育課程、教育施設などに、遠隔授業や資格取得、公開講座の情報など、より実用的で役立つ項目が多数追加されました。特に、遠隔授業ではシステム情報工学科に関する「システム情報工学科の紹介」、「情報科学への招待」の他に、東北の文化に触れることのできる「青森ねぶた」や「陸前高田

けんか七タ」、専門家向けの「世界の風力発電最前線」など多くのコンテンツを見ることが出来ます。さらに、教員紹介のページでは教員が行っている研究内容を動画などで確かめることも出来ます。



今後、学外からも学科の動きが分かるように、ホームページにシステム情報工学科の最新ニュースを掲載していきます。また、より内容を充実させるために新しい項目も増やしていく予定ですので左記URLまでアクセスしてみてください。

<http://www.info.hi-tech.ac.jp/>

● 近況報告

・高橋 育大

私は、仙台商工団地情報処理センターに入社して一ヶ月ほどして、NECソフトウェア東北に派遣されました。

派遣早々に、並列ファイルシステムの構築という二年がかりの大きなプロジェクトに参加することになりました。大学の時に並列処理システムについての研究をしており、そこで勉強していたことを活用することができて、良かったです。

現在参加しているプロジェクトは、特に品質に厳しいプロジェクトであり(ISO9001の審査対象でした)、締め切りにも追われ、大変です。一年目で、仕事上わからないことだらけですが、一つ一つ勉強しつつ、なんとか頑張っています。

・下館 敬之

私は、元々八戸に住んでいたのですが、就職して埼玉県に住む事にな

りました。住むまでは不安もありましたが、慣れれば大丈夫です。就職したのはニッコーテクノ(株)ですが、実際は富士通の中でNTTドコモの仕事をしています。現代社会は中小企業が継続的な仕事を得る事は難しく、他の会社へ派遣する形になっているのが現実です。

実際に仕事をして驚いているのは、UNIXを使う仕事をしている人達でもUNIXの構造・特徴・内部システムを知らずに仕事していることです。私のような新入社員の方が知っている事も多く、なぜか辞書代わりに使われています。これは、私が大学生の間に独自にUNIXを使い続けたからです。

誰でも得意分野が有るはずですが、その得意分野で学校内の一番になれば、どこへ就職しても人としての利用価値があります。学生でなにか打ち込む事があった人は、直接関係ない仕事においても力を入れて打ち込む事ができます。

文化会主催 文化系サークル展示会

「彩才祭」子供たちで大にぎわい!

今年の「彩才祭」は、九月二十七日、二十八日の両日、市内のPia Doshoppingセンター(イトーヨーカドー八戸沼館店)を会場に開催し、入場者は約二千二百人にのぼり大変盛況でした。

「彩才祭」は、本学文化会が開催する一般市民に公開する大規模な文

化系サークルの展示会で、「色彩と才能の祭典」という意味

を持つています。八戸市をはじめ近隣の町村の方々に、本学の文化系サークルが普段どのような活動をしているか広くアピールすることを目的に毎年学外で開催し、入場者は毎回二千人以上を数えています。

今年参加したサークルは、映像研、情報科学研、美術研など九つの



の中で、文化系だけのサークルで独自に実施している「彩才祭」は、毎年内容が充実し、学内外で評価が高まっています。文化会では、この「彩才祭」を通して各サークルの交流が図られ、それぞれの活動がさらに活発になるよう取り組んできました。お陰様で今年も無事終了し、大きな成果を挙げることができました。諸先輩方もご家族や友達と一緒に、是非足を運んで見て下さい。

文化会会長 杉田亮(M科三年)

建築工学科 拓北会

■福祉住環境

コーディネーター検定試験 在校生九名合格

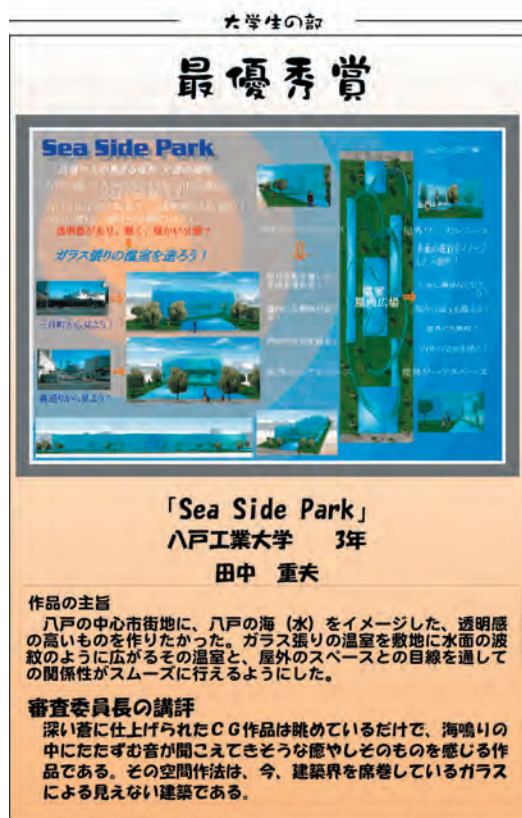
十一月に実施された検定三級試験で、建築工学科二・四年生の九名が合格しました。この資格は、高齢者や障害者に住みやすい住環境を提案するコーディネーターの公的資格のひとつです。

この試験のため、受験対策講習会を大学院建築工学専攻の安部信行君（博士後期課程一年）が橋本典久先生の応援のもとで実施しました。学生に障害者や高齢者福祉に高い関心を持つて貰うとともに、就職活動のためスキルアップできるような講座を計画しました。学外者を含む

■一般公開コンクール

「わたしの住みたい家」 住みたい街を開催

地域の人々と建築工学科との交流を図るために行われ、今年度は三回目です。八月下旬から三週間の応募期間に集まった作品は、幼児の部から大学生の部まで、計百八作品でした。応募作品の展示会は、十月の学園祭のときに建築工学科の設計製図室で開催されました。このコンクールの結果は作品集としてまとめてあります。ご希望の方は月館敏栄先生（FAX・〇一七八・二五・五〇一八）までご連絡ください。



七十一名の受講者に十三回にわたり講義・練習問題など密度の濃い講座を行いました。受講生にとっては、福祉の知識を身に付ける絶好の機会になったようです。

今後とも、在校生・卒業生の方々に、多少なりとも資格試験支援や継続教育ができる体制をとれるよう進めていきます。

■学園祭で学長賞

十月に行われた学園祭で、建築工学科の展示及び実演に対し学長賞が授与されました。各研究室がアイデアを絞って、学生参加による展示が好評を得ました。建築棟入口で行った「軸組み木造の最小限実大模型

■テレビスポットが 東北地域に流れる

渡邊正朋先生や坂本磐雄先生が中心となって完成した建築工学科のテレビスポットが、一月中旬に東北地域で流れました。十五秒の中に、安心・安全・快適な住まいとまちづくりを表現した造形と、最後に多くの学生の笑顔が出てくる素敵な仕上がりになりました。



軸組み木造の最小限実大模型
をつくる・・・渡辺研究室

をつくる」などいろいろな展示が訪れた方々の注目を引いていました。

■最近の建築教育

建築分野では、社会の要求に応えた建築教育を目指すため、JABE EやUIAなど各方面でいろいろな改革が進められています。本学科でも、設計教育の充実を図り、よりよい環境で学習・教育が行えるように、製図室や教室の整備を検討・実施しています。また、月館敏栄先生が十月に学内で開催された「教育改善に関するシンポジウム」で教育改善の事例を発表するなど積極的な取り組みを進めています。

この四月には、建築設計を専門とする若手の宮腰直幸先生が着任します。昨年四月の熊谷浩二学科長の着任に引続きの新任で、活躍が期待されます。

なお、教育改革には卒業生やその保護者の方々からのご意見・ご助言が不可欠になっています。熊谷浩二学科長宛てご連絡お願いします。（FAX・〇一七八・二五・五〇一八／kumagai@hi-tech.ac.jp）



安心・安全・快適な住まいとまちづくり
テレビスポットの一画面

●被災学生の学費減免

本学では、七月二十六日未明に発生した宮城県北部地震で、自宅の家屋や家財道具に大きな被害を受けた電気電子工学科二年の二上淳さん（宮城・石巻工高）と同三年の武山由季さん（宮城・宮城県水産高）に対し、学費を一部免除する減免措置を実施することになり、十月九日に伝達式が行われた。高橋燦吉学長から二人に減免決定通知書が手渡され、「これからの勉強が少しでも順調に進むよう暖かく見守りたい。未来には、創る未来と来る未来がある。未来を創る力をつけるため、困難な中にあつても初心を貫徹するよう頑張ってもらいたい。」と、お見舞いと励ましの言葉が述べられた。

●学術交流

本学と新疆（シンキョウ）大学との間で学術交流を進めるための協議書の調印式が、十二月十日に行われた。新疆大学は、中国の西端・新疆ウイグル自治区都ウルムチ市に所在し、同地区で最大規模の総合大学である。本学では、海外からの研究員を随時受け入れ、その中の一人である年帰国した迪里木拉提・吾甫尔江（デイルムラート・ウプルジャン）助教授が、本学の研究レベルの高さを新疆大学に報告したことが契機となつて、今回の調印が実現した。新疆大学は、東京大学、奈良女子大学両大学と学術交流を行っており、本学が日本の大学では三校目となる。

「循環型社会技術システム研究センター」設立
青森・岩手県境不法投棄現場の環境変化を衛星で監視

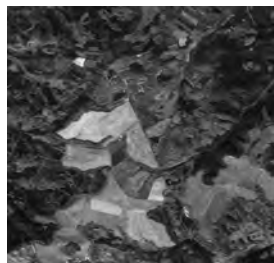
八戸工業大学による青森・岩手県境産業廃棄物の総合的な処理技術の研究開発プロジェクトが平成15年度、文部科学省のハイテク・リサーチ・センター整備事業として採択され、研究費補助など重点的に支援を受けることが決定した。期間は5年間であり、昨年4月に循環型社会技術システム研究センターを設立し、6部会で研究を進めている。

リモートセンシング利用部会では、衛星と県境産業廃棄物現場および周辺観測器によるリモートセンシングシステムを構築し、環境解析を始めた。地上約800km上空を飛行しているアメリカ航空宇宙局（NASA）の環境観測衛星Terra（テラ）とAqua（アクア）からの観測データを、11月13日に地上約23mの本館の屋上に設置した直径3.2mのド



ームの中にある直径2.4mのパラボラアンテナで直接受信して、県境の産業廃棄物現場およびその周辺など広域にわたって植生の変化、地表温度の変化、地形の変化のデータを継続的に収集し、解析を行なうことができる高度なシステムであり、国内では本学と東大、佐賀大が設置しているのみである。この受信・解析シ

ステムは他の衛星データも契約することで直接受信でき、また数mの空間分解能を持つ衛星のデータも解析できる。現在は空間分解能250mと数mの両方のデータを用いて環境解析している。さらに、現場とその周辺に、赤外線カメラ、気象計およびpH・導電率・水温を測定できる水質分析器を設置し、無線LANおよび高速電話回線で大学と結び、遠隔操作



不法投棄現場の衛星画像

およびリアルタイムデータを収集している。現場および周辺観測器の設置場所、電源、通信回線などに関しては、青森県と田子町の多大な協力を得て計画を実施した。すべてのシステムが稼動し始めたので、得られた衛星データと現場およびその周辺観測データなど複数の情報を地理情報システムで集約かつ解析し、風評被害の防止、環境回復の確認などに役立てていくこととしている。この他、Terra、Aquaの衛星と他の衛星画像および現場観測データなどを統合して、森林分野の間伐材量の推定、CO₂吸収量の推定、農業分野の生育状況、収穫高予測、やませ発生予測、水産分野の有望漁場の推定、水質監視、クロロフィルモニタ、防災分野の災害状況の把握などへの応用にも期待されている。（リモートセンシング利用部会長 藤田 成隆）

同窓会事務局の連絡先（各種連絡先としてご利用ください）

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai-m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科、電子知能システム学科事務室)	0178-25-8020	dosokai-e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058	dosokai-c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai-a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科、生物環境化学工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai-p@hi-tech.ac.jp

体育会活動状況
全国大会にぞくぞく挑戦

OBも活躍中

TDK（秋田県仁賀保町）の野球チームでプレーしている野球部OBの阿部博明さん（エネルギー工学科／平成12年度卒）が、第七十四回都市対抗野球大会にトッパバッターで出場し活躍した。



阿部博明さん（エネルギー工学科／平成12年度卒）が、第七十四回都市対抗野球大会にトッパバッターで出場し活躍した。

現役勢も、もちろん大活躍

第五十四回

東北地区大学総合体育大会

◎空手道部

空手男子個人組手第一位

吉田 聖（M科二年）

空手女子個人組手第三位

田村 舞（E科二年）

◎卓球部：団体三位

第九回東北学生ソフトテニス

シングルス選手権大会

男子第三位：三塚心輝（M科一年）

第五十六回東北学生卓球選手権大会

シングルス第三位

五十嵐昭彦（E科一年）

第五十八回国民体育大会

秋季大会に出場

◎青森県選手団空手道競技成年男子重量級代表 吉田 聖（M科二年）

◎同成年女子個人組手代表 田村 舞（E科二年）

◎岩手県選手団レスリング競技成年男子グレコローマンスタイル百二十kg級代表 田口 勇一（A科二年）

第五十九回国民体育大会 冬季大会に出場

◎福島県選手団アイスホッケー競技代表 鈴木 克幸（E科二年）、入倉 秀幸（M科一年）、

競技役員 中村 順也（E科一年）

第十回全日本学生サンボ選手権大会

七十四kg級 優勝・敢闘賞 澤藤 陽輔（M科四年）

青森県総合秋季陸上競技選手権大会

男子四百m 第三位 大村 貴光（P科四年）

女子やり投げ 第七位 中村 真紀子（A科三年）

東北テニス選手権シングルス第三位

青森県学生テニス選手権大会

シングルス優勝

中川原 正隆（E科三年）

フィギュアスケート

東日本選手権大会 第二位

第七十六回日本学生

氷上競技選手権大会 第二位

坂頂 達也（C科三年）

坂頂 みなみ（I科一年）

会報誌 記事募集！

毎年三月、九月の二回発行している同窓会報誌では、同窓生の皆様からの情報をお待ちしております。
・資格取得や受賞等に関する情報
・同期会開催に関する情報 等々
紙面の許す限り掲載いたしますので、ドシドシ投稿願います。
投稿先：同窓会本部事務局、各学科事務局まで！ ご意見、ご要望等もお待ちしております。